

駅から少し遠いから15番から1番に向かって歩いて駅に戻るのも良いよ!

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

スタート ゴール

①～②:約515m(約9分:見学含まず)
②～⑬:約1850m(約34分:休憩・見学含まず)
⑬～⑳:約1300m(約24分:休憩・見学含まず)

田無用水は玉川上水の喜平橋付近から分水され、およそ4・5kmの水路を経て田無の橋場に至り、二手に分かれて町場を流れたのち宿のはずれで石神井川に落とされた約6kmの用水路でした。水には年間1両の水代が課せられており、貴重な飲用水及び、後に水田用水として活躍しました。田無の住民はこの用水を飲用長らく大切に護ってきました。

役目を終えた今暗渠となっている「ふれあいのこみち」は田無南流の水路跡で、名主下田半兵衛の水車を回し、水田を潤したのち石神井川に落とされました。後に「富士見川」と呼ばれていました。

「やすらぎのこみち」は田無用水北流の水路跡で、総持寺の前を流れ田無神社を横切り、田丸屋裏手の池に滝となって落ち、その後石神井川に落とされていました。

明治4年(1879)に田無町3丁目10番で田柄用水を分水したのちは、主な流れは練馬区の田柄川に接続する田柄用水になったようです。このため「田柄川」と呼ばれていました。

ラジオの西東京さんぽ

田無用水 暗渠ウォーク



ルート制作・監修・滝島俊

今はもつなくなりましたが、昔はもともとも川や水路だったところを暗渠とつうんだ。
実は西東京市は暗渠の宝庫。
今回は青梅街道に沿って流れていた田無用水の暗渠を歩いてみましたよ!



1 都道132号線から青梅街道に向かうランク部
小平方面から道沿いに流れてきた田無用水は、ここから左に曲がり北側の青梅街道に向います。直進すると低地に落ちてしまつたのを避けるためと考えられます。

2 青面金剛庚申塔、地藏菩薩
庚申塔は当地29人に、より元禄13年建立されたもので、地藏尊は享保5年造立で、もともと都道132号と青梅街道の角にあったものを道路拡幅の際に現在地に移動したものです。

3 橋場の分流地
田無用水の橋が複数架けられていたため橋場と呼ばれるようになった様です。ここで田無用水は、青梅街道の北側と南側の2流に分かれて町場を流れます。

4 久米川街道の馬頭観世音と地藏菩薩
久米川街道との交差点に東西に鎮座する馬頭観音と地藏菩薩。馬頭観音は天保15年造立。地藏菩薩は道標も兼ねていて安永8年の造立。元はいずれも青梅街道の角にあつたようです。

5 観音寺 (田無小学校があった場所)
明治から大正にかけてこの地に初代の田無小学校がありました。現在の地に移転したのは大正14年4月の事でした。

6 田柄用水分水地
明治4年(1879)に新しく作られた田柄用水は、ここから分水され、保谷・練馬の村を潤しました。分水直後には、下田太郎衛門(屋号やまじょう)により水車も架けられました。

7 総持寺
谷戸にあつた西光寺が現在地に移築され、近隣の密蔵院、観音寺と共に、明治8年に合併し、総持寺として現在に至ります。幕末には沢沢成郎(寛作)率いる振武軍の本営が置かれました。

8 密蔵院跡地、旧田無行舎跡地
西光寺(現総持寺)隣にあつた密蔵院に明治6年に田無最初の学校「真誠学舎」が開校しました。その後「田無学校」を経て観音寺に田無小学校が開校されました。密蔵院跡地には昭和7年旧田無役場が建設されました。

9 『やすらぎのこみち』下流端
暗渠タイル張りに整備された『やすらぎのこみち』は、ここまですが、以前はその先の現在の「コールド」田無、田無神社参道脇を流れていました。

10 田無神社神橋
現在の龍神池の脇にあり、参道に架かる石橋は田無用水に架かる神橋で、結果として、東側に向う小路が流路跡です。その先は流路跡が消滅しています。

11 元丸屋裏庭 (滝があった場所)
柳沢宿の旅館であつた元丸屋には裏手に庭園があり、田無神社から流れてきた田無用水が、段差を落ちるときに滝として池に流れ落ちていたそうです。後に早川歯科医院となり、現在はマンションが出来てその姿を観ることは出来ません。

12 津島神社
柳沢地区にある津島神社(津嶋神社)は田無用水沿いにあり、明治期に田無神社に合祀されましたが、鳥居と石灯籠等が残されています。現在も7月の例大祭には神輿が担がれています。

13 西武新宿線築堤部のトンネルと、旧石神井川流路への落水地
田無用水北流は線路の築堤をくぐり、すくそを流れていた石神井川に落とされ、川改修と調整池整備のため石神井川の流路が南側に付け替えられています。

14 タイルアートやアートマンホール
特にこの区間から佐々病院にかけては、植物や昆虫などのタイルアートやアートマンホール(デザインマンホール)蓋が数多く見られます。

15 歩道となっている『ふれあいのこみち』
田無駅北口再開発によりアスタビル北側に広い道が出来ました。その歩道部分が田無用水の暗渠です。

16 下田家水車小屋跡地
文化5年(1808)。この場所に半兵衛(電水)が水車を作り、本格的な水車稼業(精白・製粉)を営み始めます。水車は半地下式の穴水車と呼ばれ水車直径は6m近くもありました。

17 神倉(ひえくら)
名主下田半兵衛電水が、天保9年に自分の庭に建てた500石入りの倉で、干支に因んで12に区切った建物でした。飢饉に備えて毎年貯蓄する神倉で、稗倉が杯になった後は、干支の年に干支の神倉の古穀を、貧困者や罹災者に分配しました。

18 養老田碑
政治が極めて不安定だった江戸末期である安政の時期に、私財を投じて村民の救済にあつた下田半兵衛電水(こみち)の善政を子孫に伝えるため、建立されたもので、市の指定文化財第七号に制定されました。

19 『ふれあいのこみち』下流端
この地点で遊歩道としてのふれあいのこみちは終わりますが、元々の田無用水は、線路を越え石神井川まで流れていました。また、一部は川沿いの水田に注がれていました。

20 石神井川への落水地 (文化橋)
田無用水南流の流末は、現在の文化橋のたもと石神井川に落とされていました。水田による稲作が試みられる頃になると、流末から分水し、水田に流れる分水路がいくつも出来ました。

この地図をみて実際に歩いた人は、編集部までお問い合わせください!

お便りください! ※メールは下記のアドレスまで

842fm@842fm.com

送ってくれた人へ

みんなあける!